

薬物乱用・親として

ある日、息子が非行に走った。
その時、親は……。



上映時間	26分
16ミリ版	195,000円
ビデオ版	78,000円
価格は税別	〔C#3798〕



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

企 画 意 図

薬物は中・高校生にも広がり、それに伴う犯罪も増加して大きな社会問題となっています。

本作品では、その様な少年達を育てた家庭の在り方を問うと共に、当人が肉体的・精神的に転落していく様子を描き、薬物の怖さと違法の精神を訴えたいと思います。

作 品 の 内 容

高校受験を控えた直樹は、ごく普通の中学生だった。ある時偶然知り合った高校生の真紀に覚醒剤を勧められる。社会は未成年者には甘い、法を犯すのは今のうちと彼女はうそぶく。真紀の友達ケイ達も集まって、ハイになった直樹は公園を走り回る。初めて吸った薬物だったが、それ以後、深夜の駅や公園、自分の部屋で薬物を常用するようになっていく。

母・由起子は、すぐに怒ったり苛立ったり、情緒不安定な息子に不安を抱くが、直樹の剣幕にたじろんでしまう。やがて覚醒剤を買う金に窮した直樹は、母の財布から金を盗み、仲間のケイから薬物を買う。悩んだ由起子は夫・直文に相談するが、おざなりな態度しかとってもらえない。

直樹は、とうとう女性のハンドバックをひったくろうとして失敗する。偶然通りがかった直文と同僚がそれを目撃する。直樹に問いただすと、暴れたあげく家を飛び出してしまう。3日後家に戻った直樹だが、また財布を奪い飛び出してしまう。一度薬物に手をつけると、別の薬物も……。直樹も例外ではなく、シンナーも吸飲するようになる。

両親は世間体しか考えられず、学校や警察に相談することもできない。直文は、レストランでの食事の場を設定するが、家族の溝は埋まらない。

直樹はケイ達と、サラリーマン風の男女を恐喝するまでになる。真紀は止めるが、直樹達は聞き入れない。ナイフを取り出し脅していると、刑事たちが現れる。自分でやめようと思っても、それができない恐ろしさに、真紀は思いあまって、警察に通報していたのだった。

警察署に駆けつけた由起子と直文に少年課刑事森下が、恐喝の現行犯と薬物乱用の現実を突きつける。薬物を使用していたのを気付かなかったのかと聞かれて、由起子は自責の念にかられる。森下は、薬物が簡単に手に入る社会になってしまったことを両親に語りかける。街角、インターネット、携帯メール……入手ルートは事欠かない。

薬物乱用により脳障害を起こした直樹は、精神科病院に入院する。面会に訪れた二人は親としての不甲斐なさを詫げるが、直樹は…。

親としてすぐに子供を薬物という悪魔から遠ざけるべきだった。社会に助けを求めるべきだった。子供の将来のために世間に知られまいと頑張ったことが、取り返しのつかない悲劇を引き起こしたことを悔やむ由起子だった。

プロデューサー……津田 辰己 監 督……矢田 清巳
……亀岡 正人 脚 本……福田 雅弘
制作協力……東映太秦映像株式会社

企画・制作…東映株式会社 教育映像部

2003年作品

S.

関東営業所 東京都中央区銀座 3-2-17 〒104-8108 ☎03-3535-3631
関西営業所 大阪市北区梅田 1-12-6 〒530-0001 ☎06-6345-9026
広島出張所 広島市中区国泰寺町 1-5-31 〒730-0042 ☎082-249-3930
高松出張所 高松市本町 11-7 〒760-0032 ☎087-851-3766
名古屋出張所 名古屋市中区錦 3-24-3 〒460-0003 ☎052-971-0923
福岡出張所 福岡市博多区中洲 4-3-18 〒810-0801 ☎092-262-3101

●お買上げは…

(株)オプチカル 販売課 教育映像係

香川県高松市屋島西町2484-8

TEL 087-841-1100

FAX 087-841-1101